

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	放課後等デイサービス メロディ&ウィッシュ		
○保護者評価実施期間	令和8年2月24日		～ 令和8年3月13日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	26	(回答者数) 23
○従業者評価実施期間	令和8年2月24日		～ 令和8年3月4日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	8	(回答者数) 8
○事業者向け自己評価表作成日	令和8年3月5日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	・従業者の向上意識が高く、自己評価では事業に対する厳しい評価、指摘もあり、これは人件費や諸経費の高騰などの苦しい状況下においても自己改善を目指す姿勢の現れである。その姿勢が利用児童の保護者による高い評価に反映されていると思われる。	・令和7年度からの事業変更（10名定員の2事業所を20名定員の1事業所に変更）に伴い、必要書類の整理や情報共有、支援体制の再構築など一年間は事業整理に取り組んできた。そのような状況にあっても、児童が過ごしやすい施設内の構造化やSNSや紙面による活動の様子発信（保護者のみ）を行っている。	・主に自立支援協議会を最大限活用し、近隣の同事業所とも連携をはかりつつ、放課後等デイサービスがおかれた状況を行政側に伝えることで、福祉サービス全体の構造の改善に寄与する。 (既に令和7年末に同一市内の児童発達支援管理責任者間において連携会議を発足)
2	・限られた時間においても、施設内の構造化等をはかり令和7年度においても大きな事故なく事業を継続できたことが評価できる。また、活動の明確化、事前周知をはかることで児童自身の成長はもちろん、児童や保護者からの「ぜひ利用したい」「継続したい」との評価につなげることができている。	同 上	・構造化の強化（パーテーション追加による児童の実態や活動に応じたスペースの確保・ホワイトボードを追加設置しての更なる活動の見える化）をはかり児童の過ごしやすさだけでなく、従業員の役割や活動、児童の様子の把握の容易さにつなげ支援の質と安全対策等の向上に努める。
3			

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	・宮崎県が車社会であることによる送迎問題（授業日は8つの学校と事業所間送迎を最大4名4台の従業員・車両で実施・同一時間帯の下校や異学年所属による同一学校往復など複雑困難な状況・それらに伴う高い交通事故リスク）に直面している。	・地方特有の問題（学校区の広さ・公共交通機関の欠乏・人員機材の不足）に加え、送迎問題に代表される都市部と地方における状況の違いが福祉サービスの構造に適切に反映されていないと感じる。	・今後も自立支援協議会を最大限活用し、近隣の同事業所とも連携を維持し、送迎問題をはじめとする放課後等デイサービスが抱える課題を行政側に伝えることで、福祉サービス全体の構造の改善に寄与する。
2	・諸事情により、児童のアセスメント、情報共有、支援会議各種研修等に十分な時間を割くことができていない。個々の経験や技術、知識で補っている部分が多い。	・大きくは福祉業界全体が抱える構造上の問題（報酬の固定化が人件費や諸経費の高騰に適應していない・人員配置に必要な要件を満たすことが困難など）が、福祉事業所の経営全体に波及し個々の事業、サービスに影響していると思われる。	・従業員のシフトや勤務時間の調整による必要な時間の確保を行う。（人事異動発表後に実施） ・業務のシステム化と役割の整理、分担を更に精選、明確化する。（既に法人全体で取り組みを開始）
3			